

成人用肺炎球菌ワクチンOnlineセミナー

ディスカッションパート

成人用肺炎球菌ワクチン

～接種率向上にむけた課題と今後の期待～

開催日：2022年6月1日（水）

座長 大石 和徳 先生

富山県衛生研究所 所長

演者 内藤 俊夫 先生

順天堂大学医学部
総合診療科学講座 教授

大石 まずは定期接種対象者の接種率について考えてみたいと思います。肺炎球菌ワクチンは2014年から65歳以上に対する定期接種が始まりました。厚生労働省の発表によると、定期接種の実施率は2014年から2018年までの最初の5年間は30%台を維持していましたが、2019年には13.7%に減少しました¹。2019年は5年刻み接種のサイクルが2巡目に入った年であり、2014年のキャッチアップ制度によって接種された方が対象人数に含まれていたこと、2巡目の対象者の接種行動が伴っていなかったことが影響していたと推定しています。定期接種実施率がかなり低い状況とその対策について、内藤先生はどのようにお考えでしょうか。

内藤 まず、クリニックでは年に1回の健康診断しか来院しない患者さんもいらっしゃいますので、接種のタイミングが重要になると思っています（図2）。接種を促す大きなポイントの1つは、インフルエンザワクチンを接種しに来た時です。インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンは同時接種が可能ですので、その時にしっかり肺炎球菌ワクチンもお勧めいただくのが良いかと思います。

大石 そうですね。そういう意味では、肺炎球菌ワクチンはインフルエンザワクチンほど一般の方々に定着してない¹ですよね。特に、高齢者施設などにはもう少し周知徹底が必要だろうと思いますね。

内藤 おっしゃるとおりですね。

大石 日本では成人用ワクチンに一定の費用負担が求められるとは思いますが、予防接種法の見直しや改正なども1つの手ではあるだろうと思います。ただし、その実現性は低いかもしれません。

内藤 病院では定期接種対象者から申し出があれば実施するという方が多いかもしれませんが、初診の患者さんには接種状況を確認してみるのが良いかもしれません。その他のタイミングとしては、退院する時があります。退院時の「もう二度と入院したくない」という思いが強くなった時に接種をお勧めするのが良いかと思います。医師だけではなく、看護師や薬剤師もぜひ患者さんに接種を促していただければと考えております。

大石 医療施設全体で、定期接種で通知を受けている方々をできるだけ高頻度でキャッチできる仕組みがあるといいなと思います。

内藤 そうですね。受付で「5歳刻みの年齢の人」にピンとくるという感じになるとありがたいと思います。

大石 日本のJAGES*データベースを用いた調査では、自立して生活している65歳以上のワクチン未接種者の30.6%がワクチンについて知らなかったと報告されており²、一般の方々に肺炎球菌ワクチンの存在自体がまだまだ認知されていないように思います。

*：日本老年学的評価研究（Japan Gerontological Evaluation Study：JAGES）

図2 順天堂大学における肺炎球菌ワクチン接種を勧めるタイミング

肺炎球菌ワクチンを勧めるタイミング

- 健康診断時
- インフルエンザワクチン接種時
肺炎球菌ワクチンと同時接種が可能である
- 退院時
「もう二度と入院したくない」という思いが強くなる
- 初診時
接種の有無について確認しやすい

2022年6月1日 成人用肺炎球菌ワクチンOnlineセミナー 順天堂大学医学部 総合診療科学講座 教授 内藤 俊夫 先生 ご講演より作成

2022年6月1日 成人用肺炎球菌ワクチンOnlineセミナー
順天堂大学医学部 総合診療科学講座 教授 内藤 俊夫 先生 ご講演より作成

内藤 先生方には、少しでも多くの患者に肺炎球菌ワクチン接種をお勧めいただきたいです。特に、COVID-19の影響で肺炎への意識が高まった方や、ワクチンへの抵抗感が低くなった方もいるかと思えます。これを機会に、肺炎球菌ワクチンの普及にご協力お願い致します。

大石 定期接種が始まってから約9年経過し、様々なエビデンスが蓄積されています。それにもかかわらず接種率が伸び悩んでいるのは、行政側および医療従事者側から情報を十分届けられていないことが原因かと思えます。引き続き、肺炎球菌ワクチン普及への努力を継続していただきたいと思えます。

出典

1. 厚生労働省 「定期の予防接種実施者数」平成6年法律改正後（実施率の推移）
<https://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/other/5.html> (2022/6/9閲覧)
2. Sato K, et al. J Epidemiol. 2021 Feb 6. doi:10.2188/jea.JE20200505

利益相反：

大石和徳は、本講演会、記事作成にあたり開示すべきCOIはない
内藤俊夫は、本講演会にあたりMSD社より謝礼の支払いを受けている



製造販売元 [文献請求先及びお問い合わせ先]

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア
<https://www.msd.co.jp/>

[MSDカスタマーサポートセンター]

医療関係者の方(MSD製品全般) 0120-024-961
(ワクチン専用) 0120-024-961

受付時間：9:00~17:30(土日祝日・当社休日を除く)